

第39回放送文化基金賞番組部門 ラジオ番組優秀賞 受賞

2013年5月31日

財団法人放送文化基金が選定する第39回放送文化基金賞の番組部門ラジオ番組優秀賞を、報道局ニュース情報センター・鈴木崇司ディレクター制作の「調律師という芸術家～最高の音楽を作る究極のピアノ調律」が受賞しました。番組優秀賞は、ABCとして初めての受賞になります。

題名：「調律師という芸術家～最高の音楽を作る究極のピアノ調律」

放送日時：2012年12月9日（日）午後8時から 1時間番組

出演：堀江政生（編成局アナウンス部）

菊池和明（ピアノ調律師 ビーテック・ジャパン）

岡原慎也（ピアニスト 大阪音楽大学大学院ピアノ研究室主任教授）

大田美佐子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

番組内容

「ピアノ」を知らない人はいないでしょうが、ピアノの「調律」についてご存知の方はあまりいないのが本当のところでしょう。

番組では、その「調律」にスポットを当て、世界的なピアニストも信頼する超一流の調律師、菊池和明氏に密着し、調律の基本から、「ピアノ」がようやく今の「ピアノ」に近づいたおよそ200年前のピアノの調律、それにプロのピアニストが目指す音楽のために音色を作り出す「究極の調律」までを、音の変化で伝えていきます。

エリック・サティの「ジムノペディ」と、ベートーベンのピアノソナタ「悲愴」第3楽章という名ピアノ曲を弾くのは、世界的ピアニストの岡原慎也氏。岡原氏ともう20年来の付き合いのある菊池氏が、阿吽の呼吸で「その音」を創り、岡原氏と高めていく作業は、まさに名人芸です。

「調律とピアノ」という難しい世界をスタジオで解説するのは、神戸大学准教授の大田美佐子氏。西洋音楽史を専門とする大田氏に、「悲愴」「ジムノペディ」の音楽性や、楽曲に取り組む音楽家の考えているイメージを、わかりやすく話していただきます。

受賞のことば（鈴木崇司ディレクター）

今回は、ラジオ番組のインターネット放送「radiko」が普及し、AMでもFMに負けない「音質」で勝負できる音楽番組が出来ないか、ということで始まった企画でした。

とはいっても、「音程」だけでなく、「音色」の違いまで表現しようとした無謀な企画が、これだけの評価をいただいたのには、調律師・菊池和明氏、ピアニスト・岡原慎也氏の、技術・音楽性の高さ、ゲスト・大田美佐子氏のわかりやすい解説はもちろんのこと、音楽博物館が所蔵する200年前の貴重なピアノを使用させていただいた大阪音楽大学、最高級ピアノ・ベーゼンドルファー「インペリアル」と会場の使用をお許し頂いたイシハラホールのご協力の賜物です。

大変ありがとうございました。

※ 放送文化基金賞は、

- ・視聴者に感銘を与えた優れた放送番組
- ・放送文化、放送技術の分野での顕著な業績を対象に表彰されます。